



2015年8月5日

各位

会社名 東海カーボン株式会社
代表者名 代表取締役社長 長坂 一
(コード番号 5301 東証第1部)
問合せ先 経営管理本部総務部長 宮本 裕二
電話番号 (03)3746-5100

炭素・セラミックスセグメントの合理化について

－黒鉛電極能力を大幅削減、余剰能力をファインカーボン・機能材に転用－

東海カーボン株式会社（以下「当社」）は、黒鉛電極、ファインカーボン及び機能材（リチウムイオン二次電池用負極材、以下「LiB 負極材」）の各事業における国内3工場（防府工場、滋賀工場、田ノ浦工場）の再編を2018年までに段階的に実施することを決定いたしましたので、お知らせいたします。

当該合理化プランは、黒鉛電極の製造工程を効率的に活用することで、今後の需要動向に合わせ各部門単独で投資を行った場合と比べ、設備投資額を約1/3に圧縮（約70億円を抑制）し、それぞれの事業環境の変化に応じた生産体制の最適化を図ることにより、収益力向上を目指すものであります。

記

1. 国内3工場再編概要

(1) 黒鉛電極：防府工場（山口県）、滋賀工場（滋賀県）

構造的不況が続く黒鉛電極の生産能力を、上記2工場合計で現行の60,000トン/年から38,000トン/年へ40%弱削減し、ファインカーボン及びLiB負極材製造に転用する。

(2) ファインカーボン：田ノ浦工場（熊本県）

非効率な旧式設備を廃棄、等方性黒鉛製造を最新鋭設備に集中するとともに、等方性黒鉛の製造の一部を防府工場へ、押出材の製造を滋賀工場へ移管し、品質の安定維持、生産性の向上、並びにコスト競争力の強化を図る。

等方性黒鉛は今回のスクラップ&ビルドを通じて、田ノ浦・防府両工場合わせ業界トップクラスの約11,000トン/年の生産能力を確保する。

押出材については、電極工場の製造ラインを活用することにより生産性を高める。

(3) LiB 負極材

車載用需要の中長期的な伸長に対応するため、防府工場の熱処理設備の利用を拡大し、生産能力を最小限の設備投資で確保する。

2. 国内工場再編の背景と目的

電気製鋼炉に使用される黒鉛電極の市場環境は、慢性的な供給過剰状態が改善されず販売価格の低迷が続いています。今後、更なる需要の低下及び競争激化が見込まれる状況において、当社は収益力の持続的な回復と強化を黒鉛電極事業の最重要課題と位置付け、生産能力の大幅削減に踏み切ります。

一方、ファインカーボンは、太陽電池及び半導体向け用途が回復基調にあり、今後の需要増が期待される中、旧式設備の廃棄などによるコストロスの改善、生産性向上が急務となっております。

また、LiB負極材は車載用需要拡大に伴い中長期的に大きな成長が期待されており、黒鉛電極設備の余剰を活用し今後の需要増に対応するとともに、厳しい競争に勝ち残るべく更なるコスト競争力の強化を図ってまいります。

なお、本件に伴う当社の2015年度連結業績への影響は軽微です。

以上